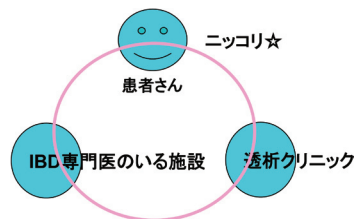




—透析センターの真殿課長(左)とスタッフのみなさん—



私たちは常に患者さんと双方向性の関係です。例えるなら、円卓を囲みディスカッションするような、そんなイメージを持って診療に取り組んでいます(岡田先生)。

より良い医療を目指して

患者さんがご自身の病気について勉強

症の心配がある方は、LCAPを検討してみてもいいでしょうか。

とが大切です。

UCが悪化し、強い治療に対する感染症の心配がある方は、LCAPを検討してみてもいいでしょうか。

強力な治療は感染対策が鍵を握る

今後のIBD治療は、免疫調節薬や生物学的製剤などの強力な治療がますます進んでいくと考えます。これらの治療を受ける前には、結核など感染症の既往がないかどうか事前にしっかり検査しなければなりません。そして感染がみつかった場合には、早期に適切な対応をとることが大切です。



〒579-8056 大阪府東大阪市若草町1-6
TEL 072-988-1409(代表)

●外来受付時間 月～土 9:00～12:00(午後は完全予約制)
●休診日 日・祝日、年末年始

<http://www.wakakoukai.or.jp/daiichi/>

LCAP 療法施設紹介

社会医療法人 若弘会 若草第一病院

名誉院長
きたのあつお
北野厚生 先生



1969年大阪市立大学医学部卒業。大阪市立大学医学部附属病院、大阪市立住吉市民病院などを経て、2007年より若草第一病院院長(現在は名誉院長)。日本消化器病学会功労会員、日本消化器内視鏡学会名誉会員、日本大腸肛門病学会専門医・指導医など

消化器内科部長
おかだあきよし
岡田章良 先生



1993年兵庫医科大学卒業後、国立大阪病院内科研修医。総合加納病院、大阪船員保険病院、大阪警察病院などを経て、2014年より現職。日本消化器病学会専門医・指導医、日本消化器内視鏡学会専門医・指導医・学術評議員、日本カプセル内視鏡学会指導医など

24時間、緊急内視鏡体制(内視鏡センター)を完全に

当院は昭和56年に開設されました。救急指定病院として、24時間患者さんを受け入れています。

消化器内科(内視鏡センター)においても緊急内視鏡体制は万全です。ダブルバルーン小腸内視鏡など、最新の医療機器を積極的に導入し、的確な内視鏡診断・治療が行えるよう心がけています。

医師と患者の信頼関係で成り立つIBD診療

現在当院には100名を超えるIBD(炎症性腸疾患)の患者さんが通院されています。UC(潰瘍性大腸炎、CD(クローン病)ともに、私たちが中心となり診療を行っています。

IBDは再燃と寛解を繰り返す疾患です。長く付き合う病気なので、治療の内容によっては、他科(他施設)との連携が必要なケースもあるでしょう。そのためには、医師と患者さんが信頼関係を築くことも大切だと思います。

LCAPの集中治療で早期寛解導入を目指す

UCを治療する上で重要なことは、漫然としたステロイドの使用を避けることです。すでにステロイドで治療中の場合は、速やかに(ステロイドを)離脱させることも重要です。



—消化器内科スタッフのみなさん—